

# 平成30年度いばらきっ子郷土検定問題解答と解説

## 行方市 解説

組	番	氏名	
---	---	----	--

番号	解 説	答
1	行方市には、日本武尊の伝説の場所が多く残っています。日本武尊は、 <b>現原の丘</b> で輿(こし:人に乗せ人力で持ち上げて運ぶ乗り物)を停めて、付近を散策して、辺りを見渡し、海も山も陸もその並び方が絶妙で「行細(なめくはし)」と名づけたとされています。	3
2	行方市の市章は、行方市の「N」と <b>帆引き船の帆</b> をモチーフとしています。3つの帆は、麻生町・北浦町・玉造町を表しています。それぞれの色は、赤『降りそぐ太陽』、青『霞ヶ浦・北浦』、黄緑『豊かな自然』をイメージしています。行方市の発展と飛躍を表現しています。	4
3	<b>出久根 達郎</b> は、北浦中学校卒業後、集団就職で上京し、月島の古書店に勤務しました。1973年(昭和48年)に独立し、杉並区で古書店を営む傍ら小説に取り組み、1933年(平成5年)には、「佃島ふたり書房」で直木賞を受賞しました。	1
4	奥村 吉郎兵衛は、東京で <b>佃煮</b> の需要が多いことを知ると、捨てられることの多かったハゼなどの小魚を使用し佃煮を製造することを考えました。製法を研究し苦勞の末に販売することに成功しました。	2
5	行方市の天王崎に位置する八坂神社では、毎年7月の最終土曜日に「 <b>馬出し祭り</b> 」という祭典が行われます。初日の宵祭りでは、神輿を先頭に稚児や神職が行列をなして地区内を練り歩き、二日目の本祭りでは八坂神社内で八岐の大蛇に見立てた飾り馬(ヤマタノオロチ)と祭神を奉じた神輿(スサノオ)とがもみあう勇ましい戦いを繰りひろげ、白装束の人々が神輿を霞ヶ浦湖中にかつぎいれる「お浜下り」も行われます。	4
6	椎の大木に囲まれ、霞ヶ浦を一望できる羽黒山公園は、鎌倉時代に常陸大掾氏の一族行方忠幹の孫、家幹が築いた <b>麻生城</b> (別称:羽黒城)の跡です。	2
7	千年以上にわたり、自然的・社会的な災害・変化を乗り越えて、生産と生活が持続的に営まれてきた集落や地域が認定される <b>千年村プロジェクト</b> に、2017年(平成29年)、行方市の麻生地区が第1号の認証を受けました。	3
8	<b>アサザ</b> は、池や沼に繁茂する水生植物で、漢方薬にも使われる「薬草植物」でもあります。水質浄化にも一役買うアサザは、8月から10月頃に黄色い花が見ごろとなります。	1
9	行方市の花に制定されている花は「 <b>ヤマユリ</b> 」です。甘い強い香りを放ち、行方市内に自生していますが、中でも西蓮寺の「井上山百合の里」は、関東随一の山百合の自生地として有名です。	2
10	ナギは「 <b>マキ科</b> 」の常緑高木樹で、雌雄異株です。葉は硬く、横方向には裂けても縦方向にはなかなか裂くことが難しく、「弁慶泣かせ」とも呼ばれています。	4
11	気軽に楽しむ <b>金魚すくい</b> を、競技化したもので、制限時間の3分間で、何匹の金魚がすくえるかを競います。成績上位者になると、時間内に50匹以上もすくいます。	2
12	2019年に行われる「いきいき茨城ゆめ国体・いきいき茨城ゆめ大会」で行方市は、公開競技の <b>ゲートボール</b> とデモンストレーション競技のビーチハンドボールの会場となっています。	4
13	<b>大場家住宅</b> は大場家第三代清左衛門正治の時に初代水戸藩主・徳川頼房の領内巡視の際の宿泊所として、また水戸藩南部の藩政事務所として建てられました。2004年(平成16年)から2008年(平成20年)にかけて5ヵ年計画により大規模な解体修理が行われ、幕末期の大山守大場家郷土屋敷に復元されました。	3
14	北浦大橋は、行方市と鹿嶋市を結ぶ北浦に架かる橋です。淡水湖に架かる橋としては、琵琶湖大橋に次ぐ2番目の長さを誇ります。開通を記念して愛称を募集したところ、8,507通の中から「 <b>サン・ブリッジ</b> 」という愛称が選ばれました。	1
15	行方市は、2005年(平成17年)9月2日に、麻生町・玉造町・北浦町が合併して発足しました。	3
16	2013年(平成25年)の3月に誕生した、行方市のマスコットキャラクターの名前は「なめりー <b>ミコット</b> 」です。なめがたとゆりのリリーでなめりー、古代の高貴な人々のイメージで「尊」から <b>ミコット</b> 。古代の服装とユリの花の帽子をかぶり、首にかけた勾玉はサツマイモ、前髪は行方の頭文字Nを表現しています。	2
17	2017年(平成29年)、茨城県のエシャレットは収穫量日本一を誇りました。現在でも、行方市の主要野菜として栽培されています。	4
18	帆引き船を使った帆引き船漁は、1880年(明治13年)から行われていたが、当初はさっぱ舟によって行われていました。玉造の船大工 田上 亀次郎は、さっぱ舟の波きりが悪いという欠点を、チョキ舟の利点を合わせることで改良し、 <b>ミヨシ船</b> を造りました。ミヨシ船は漁獲量の飛躍的な増大をもたらし、以後霞ヶ浦漁船の主流となりました。	1
19	沖洲古墳群の一つ、三味塚古墳の石棺内部からは、多くの副葬品が出土しており、それぞれが古墳時代を知るための重要な出土品となっています。金銅馬形飾付透彫冠を始めとした貴重な出土品が、平成30年度に <b>国重要文化財</b> の指定を受けました。	3
20	行方市は鉾田市、潮来市、小美玉市、かすみがうら市、鹿嶋市の <b>5市</b> と道路でつながっています。稲敷市は霞ヶ浦上で境界を接していますが道路ではつながっていません。	2
21	行方市の西側の玄関口となっております。起伏もなく、対岸に向かって一直線に伸びている全長 <b>1,140メートル</b> の橋です。	4
22	<b>トロゴンテリ</b> ーは、玉造の若海本郷付近で発掘された旧象の化石です。発見されたのは、板状の大臼歯ですが、約15万年前の氷河期かそれ以前に何度か訪れた氷河期のものと考えられています。	1
23	西蓮寺の慶弁阿闍梨が、2度にわたった <b>元寇</b> の後、元の襲来を撃退した戦勝を記念し建立したと伝えられてます。高さ約31尺の銅版鍛造で、全体の形は、天台宗の象徴である錫杖型となっています。	2
24	行方市は、常陸太田市、常陸大宮市、大子町、つくば市、笠間市、日立市に次ぐ <b>7番目</b> の面積を誇ります。	3
25	大日塚古墳は、沖洲古墳群のひとつで、形状は帆立貝形古墳です。古墳時代後期の6世紀前半頃に作られたものと考えられており、円筒埴輪や動物埴輪が出土しています。出土した、 <b>猿形埴輪</b> は、現在東京国立博物館の収蔵物となっています。	4